

○ 遊具及び運動器具設置事業

昨年度は防衛省の特定防衛施設周辺整備調整交付金で「雲梯」と「登り棒」を設置しました。子供達はとても大喜びで、雲梯を何回も横断している子や登り棒を天辺まで登りピースする子もいました。

子供たちからは「もっと遊具を設置して欲しい」、教師からは「体育の授業で体づくりになった」との評価を貰いました。

それを受けて今年は、「シーソー」と「ザイルクライミング」を設置しました。設置後すぐに幼稚園児から小学生、中学生まで一緒になって登ったり、おにごっこをして遊んでいます。

幼児期は遊びを通して生涯にわたる人格の基礎を形成していくと言われているので、自然に直接触れたり、遊具や運動器具等を通して仲間と仲良く遊ぶ環境が必要になる。小学校においても幼稚園と同様に遊びは不可欠な要素である。

人間の発育において、ゴールデンエイジと呼ばれる9歳から12歳の時期までには、神経系の発達がほぼ完成に近づくといわれて、幼児期から小学校までの間に、運動における多種多様な動作を経験させることが必要になると考える。

このように遊びを通して、いろいろなことをやってみようとする意欲や、友達と仲良く遊んだりする心が形成されていきます。

渡名喜の子供たちが遊具で思いっきり楽しく遊び「豊かな心」と「たくましい体」を育むことを期待しています。



